

日本国憲法より

第13条 すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。
第25条 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

協同で創る健やかライフ

健康

第731号

発行所
〒036-8045 弘前市大字野田2丁目2の1
津軽保健生活協同組合
発行責任者 村上 渡
電話 0172-33-7515
ホームページ http://www.tsugaru-health.coop
Eメール kenkou@tsugaru-health.coop
印刷所 やまと印刷株式会社
◎組合員の購読料は出資金に含まれます

健康 第731号 2023.11



健生病院産婦人科 朝のミーティング 医師・スタッフ

日本では毎年約1・1万人の女性が子宮頸がんに罹り、約2900人の女性が子宮頸がんにより亡くなっています。また、若年層で発症する割合が高いがんであり、30代までにがんの治療で子宮を切除してしまう人も年間約1000人います。子宮頸がんの発症はHPV(ヒトパ

子宮頸がんを予防しよう

ピローマウイルス)の感染が原因と考えられており、その予防にはHPVワクチンの接種が有効とされています。

しかし、日本では副作用への不安が拡がり、国としてワクチン接種を個別推奨する取り組みが手控えられた時期がありました。この間にワクチン接種の機会を逃した女性は多数いるのが現状です。

自己負担なしで ワクチン接種

厚生労働省は2022年より子宮頸がん予防HPVワクチンの接種を改めて推奨しています。HPVワクチンは、子宮頸がん発症の確率を大幅に下げることがを目的に開発され、その有効性はすでに(日本以外の)各国で確認されています。現在、日本で認可されているワクチンは3種類ですが、その中でも、23年4月より公費(自己負担なし)対象となった「シルガード9」は子宮頸がんの原因となるHPVの88・2%に対して有効であり、その有効性は更に上がりま

した(22年まで公費対象であった「ガーダシル」は65・4%)。現在はワクチンの接種を逃した方を対象に「キャッチアップ接種」も設定されており、過去に接種を逃した方も25年3月までは公費で接種可能です。ただし、全3回を公費にするためには、24年9月までに初回接種を開始する必要があります。

接種後心配なことは

ワクチン接種後に現れた様々な症状、不眠、倦怠感、頭痛

めまい、冷え、脱力、月経不順などは、この数年間で様々な調査研究が行われた結果、「ワクチン接種と因果関係がある」と証明されたものではありません。名古屋市中で15年に実施された大規模な調査でも、ワクチンを接種した女子と接種しなかった女子で有意な差はありませんでした。

下のQRコードからも情報を得ることができますので、是非アクセスしてみてください。(医師・橋本史可子)

子宮頸がん予防HPVワクチンのお勧めとお知らせ
小6〜高1の女子

津軽保健生協で受けられる予防接種

Table with 8 columns: 予防接種, 組合員格, 健生病院, 藤代健生病院, 津軽医院, 健生五所川原診療所, 健生黒石診療所, 健生クリニック. Rows include various vaccines like 肺炎球菌ワクチン, インフルエンザワクチン, etc.

◆定期接種の対象
小学校6年生〜高校1年生相当の女子

◆キャッチアップ接種の対象
1997年4月2日以降に生まれた方、かつ、定期接種対象年齢を満たした方で過去にHPVワクチンを3回接種していない方
※1〜2回接種済みの方は合計3回となるまでの残り回数を公費にて接種することができます

◆問い合わせ
平日の午後 産婦人科外来受付まで (0172-55-7717)



第13回

おらほのいいどご 発表会

12月9日(土) 13:30~15:30

弘前市中央公民館岩木館 (旧岩木町公民館)

組合員 (3支部発表予定)
職員 (3職場発表予定)

教育委員会

組合員や職員の活動を相互理解する場として開催します。医療福祉生協の「いいどご」を深め合って今後の活動に活かしていただければと思います。参加費は無料です。たくさんの方の参加をお待ちしています。

津軽医院「介護老人保健施設(老健)」 26年の歴史に幕

津軽保健生協理事会および第98回通常総代会において津軽医院の老健事業を2023年度中に廃止することが決定され、青森市より23年9月30日付けで事業の廃止が承認されました。

老健廃止の決定当初は、入所者、ご家族、老健職員ともに困惑と悲しみにあふれていました。しかし老健職員は、入所者やご家族の不安を最小限にすること、入所者全員が安心して健やかに過ごせる場所へ転居することができるよう働きかけることが自分たちの使命だと気持ちを切り替え、全力で取り組みました。

担当者が入所者、ご家族の不安な気持ちに寄り添い、チームで情報共有を行いながらより良い施設を模索し、様々な調整を経て7月29日に全員の転居を終えました。

転居が進む中でも、最後まで「寄り添った介護」を貫き、いい思い出を残そうと黒石よされレクやねぶたレクを盛大に行いました。入所者様のとびきりの笑顔は職員にとって一生の宝物です。転居の日、それぞれのご家族から「本当に良くしていただきました。と心のこもった感謝の言葉をいただきました。

入所者、ご家族の方々には多大なご迷惑とご心配をおかけしましたが、職員一人一人が精一杯誠意を持った取り組みを行い、信頼を失うことなく老健を終了することができました。

これまで津軽医院の老健をご支援・ご愛顧くださった皆様、心より感謝申し上げます。なお、外来・在宅医療・健診・予防接種・通所リハビリ・居宅介護支援事業は継続いたします。引き続きのご愛顧を何とぞよろしくお願いいたします。

(津軽医院 事務長・兵藤尚子)

各ブロックで 秋の生協強化月間推進委員会

10月から始まった秋の生協強化月間に向けて、9月各ブロックで月間推進委員会が開催されました。9月26日に開催された西北ブロックでは、八島将仁組織部部長が月間の行動提起をした上で、「健康新聞未配布者の整理をしたい」「支部再建のため、訪問行動を続けたい」など、月間に向けた各支部の取り組みが報告され、共有をしました。また、健生五所川原診療所では、月間中「デイケア部門の組合員加入の呼びかけに力を入れる」「健康チャレンジに全職員が取り組む」ことが報告されました。11月30日までの2ヵ月間、目標達成へ向けて支部・事業所共に頑張っていきます。(組織部・齋藤淳一)



中弘ブロック



西北ブロック



南黒ブロック

各支部予定

- 11/9(木) 南支部 活動者交流集会 板柳ふるさとセンター
- 11/11(土) 尾上支部 第3回おのえ健康まつり 尾上南田会館
- 11/16(木) 南支部 わとなの体操サークル 千年交流センター
- 11/22(水) 東中支部 おしゃべりハウス 城東団地集会所
- 11/25(土) 四中りんご支部 活動者交流集会 未定
- 11/30(木) 和徳支部 サロンつくし ちぎり絵生協会館



9月度定例理事会 (10月3日)

- 【報告事項】
 - 9月度の主な経過報告と10月・11月・12月の主な行事予定
 - 専門委員会報告
 - 8月度の月次決算報告
 - 8月度の組合員活動報告
 - 青森県生活協同組合連合会理事会報告
 - 青森県医療事業協同組合理事会報告
- 【審議事項】
 - (一) 議決事項
 - パートタイマー・臨時職員の就業規則の運用の変更について
 - 県外住所で登録されている組合員に関する取扱規則(「定款第6条第2項組合員に付随する規則」) 改定について

医師からの紙ヒコーキ



ジェンダーギャップの大きい日本で医師として働く

健生病院 小児科 加村 梓

こんにちは、小児科の加村梓です。今回、「医師からの紙ヒコーキ」に何を書こうかな? 小児科を紹介しようかな? 専門として取り組んでいることにしようかな? いろいろ考えましたが、健生病院も加盟する全日本民医連が、医師数を増やすための大運動を提起しているの、医師の働き方について、私は子育て中の身ですので、ジェンダーギャップの視点でお話しします。

数年前に、医学部入試における女性差別問題が発覚しました。女性や現役生以外の点数を下げて、女性が入りにくくするものでした。女性は早熟だから男性に加点するんだ、といった理由にならない理由が報道されましたが、女性は医師として十分に働かないから、しょうがないという声も耳にし、短時間勤務制度利用中の私は、「私のせいで、後に続く女性が差別されてしまって、申し訳ない」という罪悪感でいっぱいでした。

実際には、私が短時間勤務を続けても、女性の合格率は男性と同等になり、女性の方が多い医学部数も増えています。あからさまな差別に対しておかしいと声を上げた人たちの力を感じます。

さて、女性を排除する、「医師にするなら男性」といった背景には、日本の医師数の少なさと、女性医師の少なさが影響しているようです。人口1000人当たり医師数はOECD加盟国平均が3.5人に対して日本は2.4人と少なく、女性医師の割合はOECD加盟国平均が49%に対し、

22%と最も少ない国となっています。

また、ジェンダーギャップが大きい国日本。統計上教育までは男女差が少ないのですが、政治や経済分野でのギャップが大きいと指摘されています。男性の有償労働時間は452分(週全体平均、1日あたり)とOECD平均の約1.4倍、無償労働時間(日常の家事、買い物、世帯員のケア、非世帯員のケア、ボランティア活動、家事関連活動のための移動、その他)は41分と1/3に満たず、世界的にみても有償労働時間が長く、長時間労働が続いている現実があります。

一方、女性もOECD平均と比較して有償労働時間は長く、無償労働時間も長いと、無償労働時間の男女比が5.5倍とダントツとなり、OECD平均1.9倍と比較してもギャップが大きい国となります。

長時間労働が当たり前の日本、医師の8割が男性の日本。そんな中で、全ての時間を医師労働に捧げることが前提とした医師数となっていることが問題です。医学部学生数も最も少ない国(OECD平均・人口10万人あたり13.0人に対し日本では6.9人しか養成していない)なので、今後も医師数は少ないままと予想されます。

医師の過労問題と、女性医師は「戦力にならない」と見なされる問題、医師数を抑制してきた政策的な誤りによるものですが、私のような働き方の医師が、子育てしていることに罪悪感を感じる、つまり、医師の仕事より子育てを下に見てしまうことも影響しているでしょう。



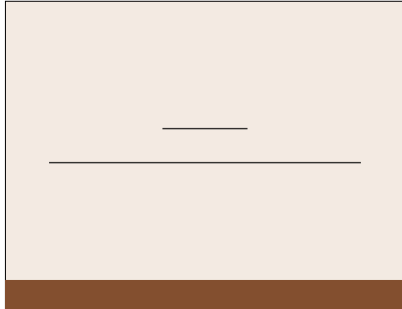
募方法

とき方「カギ」に従ってマスをうめて下さい。二重の枠の中に入った文字をうまくつなげるとひとつの言葉(答え)になります。
ハガキやメールでパズルの答えと、興味を感じた記事や日頃の想い、身のまわりのことを記入下さい。おたよりは一部紙面に掲載させていただきます(紙上ペンネーム可)。締切日11月15日必着。正解者から10人にQUOカードを

読者仲間

Decorative header with colorful squares and a pink bar.





Decorative border with colorful polka dots.



Decorative header with colorful circles and the text "おめでとう" (Congratulations).

